

本記事で実施すること

- Apache設定ファイルを編集し、アクセスログとエラーログをRedmineのlogディレクトリに保存されるようにする。
- ログローテーションの設定を行う。
- Redmineのプラグインを利用して、Web UIからログを参照できるようにする。

想定している読者

- Redmineのアクセスログ / エラーログを気軽に閲覧したい。

前提

以下の環境で動かしています。

- Ubuntu 20.04系
- Redmine 4.2
 - Redmine5.0でも動作確認済み(2023/02/09)
- Apache 2.4

特記事項

テキストエディタを使って編集する箇所があります。必ずバックアップを取得し、失敗したときに切り戻しができるようにしましょう。

手順

さっくりとした手順

1. Apacheの設定ファイルを編集し、redmineの稼働ディレクトリにログを流すようにします。
2. rsyslogを編集して日ごとにログを設定します。
3. Redmineのプラグインをインストールして、管理画面からログを閲覧できるようにします。

Apache設定ファイルのバックアップを取ります。

```
cd /etc/apache2/sites-available&& pwd
# /etc/apache2/sites-available  にいることを確認します

sudo c -pi redmine.conf ../old/redmine.cc$(date +%Y%m%)l
# 設定ファイルの名前は自分の環境に合わせます
# バックアップに /etc/apache2/old を指定しています
# なければ作るか、他に任意の場所を指定します
# 変数を付けることで、ファイル名にYYYYMMDD形式が付与されます
```

```
diff -u redmine.conf ../old/redmine.cc$(date +%Y%m%)l
# 差分が無いことでバックアップの取得を確認します
```

/var/log配下にシンボリックリンクを張ります。

```
cd /var/log&& pwd
# /var/logにいることを確認します

sudo ln -sf /home/www-data/redmine/log/ redmine
# ログの格納場所は自分の環境に合わせます

ls -l redmine
# 所有者が設定したRedmineのログディレクトリに向き先があることを確認します
```

Apache設定ファイルを編集します。

```
sudo vi /etc/apache2/sites-available/redmine.conf
# 教義・信仰に従ったエディタで編集してください。
```

追記内容

```
CustomLog /home/www-data/redmine/log/access.log combined
ErrorLog /home/www-data/redmine/log/error.log
# Redmineが配置されているディレクトリ/logに合わせます
```

```
# 追記箇所は
# <VirtualHost *:443>
#     ServerName [ドメイン名] の下
# CustomLog /home/www-data/redmine/log/access.log combined
# ErrorLog /home/www-data/redmine/log
#
# 常時SSL化しているため、HTTP通信のアクセスログは設定しません
```

差分を確認します。

```
diff -u ../old/redmine.con$(date +%Y%m%) /etc/apache2/sites-available/redmine.conf
```

差分

```
<VirtualHost *:443>
    ServerName Redmineドメイン名
+   CustomLog /home/www-data/redmine/log/access.log combined
+   ErrorLog /home/www-data/redmine/log/error.log
+
```

設定を反映します。

```
sudo apache2ctl configtest
# Syntax OKを確認します
```

```
sudo systemctl restart apache2.service
```

ログが流れることを確認します。

```
tail -f /home/www-data/redmine/log/access.log
# 自分の環境に合わせます
```

このコマンドを発行し、何回かRedmineサイトにアクセスし、ログが正常に出ていることを確認します。

ログの所有者を変更します

```
sudo chownwww-data:www-data /home/www-data/redmine/log/access.log
sudo chownwww-data:www-data /home/www-data/redmine/log/error.log
```

この処理は、Redmineのログ閲覧プラグインの設定が必要です。

ログローテーション設定

- 【 】内は自分の環境に合わせます。

```
cat <<- __EOF__ | sudo tee -a /etc/logrotate.d/redmine
【/var/log/redmine/】*.log {
    daily
    missingok
    ifempty
    copytruncate
    rotate 10
    compress
    su www-data www-data
}
__EOF__
```

これで、

- 日ごとにログをローテーションする
- 10世代保存

- ローテーション時に保存
- ログが書かれていなくても処理を続行

などの処置を行います。

動作確認

```
sudo logrotate -dv /etc/logrotate.d/redmine
```

エラーがないことを確認します

Redmineのログ閲覧プラグインをインストールします。

プラグインインストール、設定反映

```
cd /home/www-data/redmine/plugins&& pwd
# 自分の環境に合わせて。pluginsディレクトリにいることを確認します。
```

```
sudo -u www-data git clone https://github.com/haru/redmine_logs
```

```
sudo systemctl restart apache2.service
```

ログ確認

1. Redmineに管理者アカウントでログインします。
2. 管理 > ログに遷移します。
3. 任意のログをクリックして閲覧できることを確認します。

ファイル

O_Redmine基本アイコン.jpg	258 KB	2024/01/05	手動人形
---------------------	--------	------------	------